

4月17日（金）

おはようございます。

今日は挨拶の話をしようと思います。挨拶は非常に大切です。以前にも話したことがあります。三井住友銀行の人事担当で、新入社員の担当の人と話したことがあります。その方が、新任を採用する最初の基準は挨拶だと言われました。つまり挨拶がきちんとできるかどうかを採用の第一基準だということです。立派な実績を積んでいても、優秀な大学を出ていても、挨拶に元気がない人は採用しない。一回の面接でそういうことは分からないのではないかと私が聞きましたら、いやそれは絶対分かると言われました。日頃から挨拶をしているか、そうでないか、面接試験をすればすぐにわかると。挨拶が身につけている人の中からまず選んで、その後で、どこの大学かとか、どんなことを大学で実践してきたかということ調べて採用を決めるのだそうです。

挨拶ができる人は、実は人に自分のことをきちんと伝えることができる人なのです。現在、日本の総務大臣をしている高市早苗（たかいちさなえ）さんが、かつて選挙で落選していたときに、清風に来てもらい生徒を相手に話をしてもらったことがあります。この高市さんは、松下幸之助が作った「松下政経塾」を出ています。その塾の試験で、松下幸之助さんが、最終の面接では私のことについてはまったく何も質問してくれなかったもので、これは私が、彼の喜ぶようなことを何も言えなかったからだろうかと思ったそうです。これは不合格かなと思っていただけ、合格していた。それである日、松下幸之助さんに会った時、「私を合格させたポイントは何ですか」と聞いたら、あなたの挨拶と笑顔が良かったからだという話をしてくれました。

清風の生徒諸君は、僕にはとてもよく挨拶をしてくれます。学校の外で会っても挨拶してくれるので、こちらとしてもとても気持ちがいいのです。僕も諸君に挨拶をするように心がけているけれども、日頃からそういう習慣がなかったらできないものです。たとえば就職の面接試験のときだけ、気持ちのよい挨拶をしようとしてもそれは無理というものです。

ですからまずは、学校生活のなかで挨拶をきちんとできるかどうかなのです。よく理事長先生が、登山をするときに、上から下りてきた人とすれ違うときに何も言わなかったらそれで終わりだが、ひとこと挨拶したらそれで何かが変わるものだ。あの人どうなっただろうと思うことにもなる。そういう想像力を働かせたり、そして人とのつながりができたりする、そのきっかけはやはり挨拶なのです。

今、新入生も入ってきて、みな張り切っていて挨拶もとても一生懸命に、学校の外でもやってくれるので、すばらしいことだと思います。この習慣

をしっかり身につけていくと良いのです。

昨日、日能研の森永先生が、先生は一昨年、100キロ歩行を完歩されたのですが、学校の側を通ったら、自分の顔を知っている生徒が挨拶をしてくれた。学校の中で挨拶してくれるのはまあ当たり前だけれども、自分が100キロを完歩したからだろうか、すごく嬉しいと言われていました。

やはり、ちょっとしたことでも自分をしっかり伝えることが大事です。挨拶は自分を伝える練習です。人とのつながりのきっかけをつかむ練習をすることです。今後もそういう意味で、感じのいい挨拶を心がけてください。今朝の話はこれで終わります。

(学校長)